

香港養和病院に陽子線治療に係るオンライン研修を実施

2020年3月31日（火）、北海道大学と日立で開発された動体追跡陽子線治療装置が導入されつつある香港養和病院から北海道大学病院での患者の陽子線治療の方法を学びたいとの希望に基づき、オンライン研修を開催しました。香港養和病院からは、以下を含む19名の医療関係者が参加しました。

Dr. Simon TANG -Proton Therapy Lead

Dr. DD LAU -Chief Operating Officer, HKSH Eastern Medical Centre

Dr. Ben YU -Department in charge of Medical Physics & Research Department

Dr. George CHIU – Department in charge of Radiotherapy

Dr. Kin Ming Lai -Head, Department of Anesthesiology

本院からは、小児腫瘍への陽子線治療中の麻酔経験が豊富な麻酔科の敦賀健吉講師にお越しいただき、国際医療部医理工部門から清水伸一教授（医理工部門長）、橋本孝之准教授、高尾聖心助教、白土博樹教授が参加しました。香港は土地が狭いため、いろいろな装置の設置方法が北海道大学病院と異なることに伴う医学物理学的な観点からの注意点、幼児に対する全身麻酔下での治療計画用CT検査、陽子線治療、その他多くの工夫に関して議論がなされました（写真）。多くの収穫があったと好評を博すと同時に、海外機関との連携を深める大変有意義な機会となりました。

今後とも、世界の陽子線治療の発展のために、北海道大学病院国際医療部医理工部門でのノウハウを広めていきたいと思えます。

